

冒険の森で eco キャンプ～持続可能な未来を拓こう～

令和2年10月10日(土)～11日(日)

【目的】

体験型の環境学習を通して自然環境への関心を高めるとともに、持続可能な未来を拓くために自分に何ができるかという考えを持ち、環境の保全に寄与する態度を養う。

【参加者】小・中学生：20名（小学生16名 中学生4名）

【プログラムの内容】

1日目

- 10:30 始めの会
- 11:00 eco ゲーム
- 13:00 プログラム①「徳地の森を探検しよう」
- 19:30 プログラム②「ecoについて学ぼう」

2日目

- 9:30 プログラム③「環境保全活動を体験しよう」
- 13:30 プログラム④「SDGs My Action を造ろう」
- 15:00 終わりの会

eco ゲーム



初対面の緊張をほぐすために、みんなでゲームを行った。はじめは誰でもできる簡単なゲームを行い、笑顔が出てきたところで、自然に関連する要素を取り入れたゲームを行った。ゲームを楽しみながら緊張をほぐすとともに、自然環境に意識を向け始める様子がみられた。

プログラム①「徳地の森を探検しよう」



いきいきエコネットワーク山口の方を講師にお招きし、自然観察やススキ箒づくりを行った。身近な植物で掃除道具が作られてきたこと、季節の動植物が自分たちの食生活に関わっていること、循環型の社会を実現させるために自分たちにできることなどについて、体験を通して学んだ。

プログラム②「ecoについて学ぼう」



自分たちの身近な食べ物は、どんな材料でできていて、その材料はどこからやってきたのか、グループで話し合い、ecoについて考えた。普段何気なく食べているものの中には、エネルギーを多く使用するものや、CO2を排出するものがあることなどに気づき、ずっと地球で豊かに過ごすためにどうすればいいのか、考え合う姿が見られた。

プログラム③「環境保全活動を体験しよう」



山口中央森林組合の方を講師にお招きし、森林の役割や森林づくりのお話を聞いた。実際に、のこぎりやチェーンソーを使って木を伐る体験を行い、伐り倒す大変さや生きている木の重さを体感した。また、講師の方がロープを使って軽やかに木に登り、枝打ちをする姿に驚きの声が上がった。

プログラム④「SDGs My Action を造ろう」



自分たちで間伐した木をのこぎりで輪切りにし、SDGsのロゴをモチーフとしたバッチづくりを行った。友達と木を支え合うなど、自然と協力し合う姿が見られた。造ったSDGsバッチに「ecoのために、これから自分は何をするか」思いを込めて、みんなの前でMy Actionを宣言した。

【参加者の声】

- ・「SDGsをこれから意識して生活したい、周りの人にも広めたい」
- ・「ecoのことや、自然の大切さ、人と自然のつながりのことを教えてくれてありがとうございます」
- ・「色々な人と2日間とは思えないほど仲良くなることができたので嬉しかった」

【成果】

キャンプに参加して、「満足」は95%、「やや満足」は5%であった。参加者アンケートからは、環境保全について学んだこと、気づいたこと、これからの目標などの感想が多く、自然環境への関心や、環境保全への意識が高まったと考えられる。

【課題】

対象を小学校5・6年生から中学校1・2年生としたことで、異年齢間交流が図れた半面、活動プログラムの内容を小学生に合わせる場面が多く、内容のレベルにばらつきが生じてしまった。また、SDGsと体験活動プログラムの関連性については、まだ不明瞭な部分も多く、内容の洗練が必要だと考える。